

2025 年 11 月 14 日

各 位

会 社 名 株式会社エイチームホールディングス
代 表 者 名 代表取締役社長 林 高 生
(コード番号：3662)
問 合 せ 先 執行役員 社長室長 森下 真由子
(TEL. 052-747-5573)

株式会社エイチームホールディングス 機関投資家ミーティング よくある質問と回答 (2025 年 10 月)

2025 年 10 月に実施した機関投資家との 1on1 ミーティングにおける主な質問と回答について、下記の通り開示いたします。本開示は株主・投資家の皆様への情報発信を通じてご理解を賜ること、フェア・ディスクロージャーを目的としております。なお、質問及び回答に関して、一部内容・表現を加筆・修正しております。

記

暗号資産の市場価格の変動に伴う影響について

Q. 2026 年 7 月期も 2025 年 7 月期のように、暗号資産の市場価格の変動が業績に与える影響はありますか？

A. 当社のグループ会社である Paddle 社は、アプリの利用状況に応じて暗号資産に交換可能なポイントを付与するポイントアプリ等の運営をしております。ポイントアプリという特性上、将来発生するユーザーとの交換に備えて、交換予定のポイント相当分を費用（販売促進引当金繰入額）として計上するとともに、ユーザーの利用状況に応じてビットコイン等の暗号資産を購入して資産として保有する必要があり、その額は 2025 年 7 月期末時点で約 12 億円となっております。2026 年 7 月期の業績予想において、暗号資産の市場価格は 2025 年 7 月 31 日時点から変動しないものと仮定しております。保有する暗号資産のうち多くを占めるビットコインを例とした場合、2026 年 7 月期末時点においても 17,483,524 円であると仮定して業績予想を作成しております。従いまして、2026 年 7 月期における各四半期末時点の暗号資産の市場価格が 2025 年 7 月 31 日時点から上昇した場合、暗号資産引当金繰入額（費用）が

増加し営業利益が減少しますが、暗号資産評価益（営業外収益）が計上されるため経常利益が増加いたします。反対に下落した場合は、暗号資産引当金繰入額（費用）が減少し営業利益が増加しますが、暗号資産評価損（営業外損失）が計上されるため経常利益が減少いたします。

M&A について

Q. M&A の対象として想定している企業規模について教えてください。

A. 現在は、当社の PMI の体制等も考慮し、Enterprise Value（EV）が 30～50 億円ほどの企業を M&A の対象として想定しております。EV/EBITDA 倍率として 7 倍程度を目安に、安定的な利益創出が期待できる企業をターゲットとして考えています。また、過去に実施した M&A の傾向では、当社の代表取締役社長である林がプログラマーであることから、エンジニアの方が創業された企業との相性が良いように思います。この特徴もいかながら、当社とのシナジーが見込める企業を探していきたいと考えております。

Q. M&A した会社の現在の PMI の進捗はいかがでしょうか。

A. グループ入りした企業に対して、事業成長に必要な人材を異動等により柔軟に配置し、支援しております。M&A の実行にも携わった経営戦略室の PMI 人材をはじめ、既存の会社からエンジニアやマーケティング人材など、事業の特性や今後の計画に合わせて配置し、成長に向けて取り組んでおります。microCMS 社は、ビジネスチームの立ち上げとともにセールスマーケティングに関する人材を配置することで着実に成長をしており、2024 年 12 月時点で累計利用企業数は 1 万社を突破しております。Paddle 社は、暗号資産関連事業の拡大に向けた各種施策を推進し、順調に成長を続けております。WCA 社は当社と連携し、販路の拡大を図っております。一方で、ストレイナー社は AI の台頭により影響を受けておりますが、挽回に向けた対応策を講じております。新たにグループ入りした 4 社の成長に向けて、引き続き取り組んでまいります。

以 上